

■長野地方本部 長野支部座談会

長野支部では座談会（11月4日、5日、9日）を開催し、年末手当要求満額獲得に向けて様々な声を出し合い、要求実現に向けて意思統一を図っています。

◆年末手当要求について【組合員の声】

- ・西日本の1.5ヶ月よりは良いと思うが…。東日本はどうなのか？
- ・まわりには、体力があっても減額仕方ないという世論の流れがある。
- ・経営体力があるならば、ボーナスは出すべき！
- ・世論でボーナスを下げる報道があるが、上げる報道がない。
- ・コロナ禍でも仕事をしており、エッセンシャルワーカーとして働いていた。ボーナスが下がると仕事のやる気が下がる。
- ・経営が赤字なのだから役員報酬をもっと下げるなど、姿勢を見せてほしい！
- ・経営陣の危機意識が見えないし、伝わってこない！
- ・会社が「今回これしか出せません」となった時に、儲かった時には「世間相場…」（世間相場を考慮した回答）とは言わせない！
- ・要求の3.0ヶ月は納得できる。3ヶ月でも少ないくらいだ！
- ・コロナ禍だとしても、一年間の生活設計は変わらない！（出費も変わらない）
- ・経営が右肩上がり時には業績を宣伝せず、下がった時に宣伝するのはおかしい！
- ・他企業では減額→休業→出向となっているが、雇用を守ることも会社も組合も言わない。もっと視野に入れるべきではないか。
- ・低額回答は許されない。今まで散々儲けていたのに出さなかった。今出すべきだ！
- ・ボーナスが出ることを「あて」にして生活している！
- ・職場の管理者や社友会が「低額回答仕方なし」の雰囲気をつくり出している。
- ・職場の若手が軽いノリで低額回答を予想している。しかし、現実のローンなどの話をするとう「低額回答が現実になると困る」と言うし、内部留保が賃金に使えないことなど知らない人が多い。
- ・駅長が夏のボーナス明細を渡すときに「こんな時に有難く思え…」みたいなことを言っていて、腹が立った。
- ・最近、危機感がない。事故も多い。国鉄末期の頃を思い出す。
- ・若い人は、社友会に入っていれば会社が守ってくれると思っている。
- ・ベアないならボーナス上げてくれ！

